

令和7年度 行政の諸課題解決のための大学生による多角的アプローチ事業
「人口減少対策（特に若者・女性にも選ばれる地方になるための取組）」

大学生へのインタビュー から見える若者の本音

— 山陽学園大学の学生を対象に —

山陽学園大学総合人間学部ビジネス心理学科

1

グループインタビューの概要

- ・開催日時：2026年1月29日（木）午後4時30分～午後6時
- ・参加者：山陽学園大学総合人間学部ビジネス心理学科3年生7名、教員2名



2

インタビューの内容

- ・現状認識（人口減少の問題点）
- ・岡山県の「魅力」と「課題」
- ・就職と居住地の選択
- ・子育てと将来の不安
- ・地域貢献の経験
- ・若者からの提言

3

現状認識（人口減少の問題点）

- ・経済的・社会的影響（負の影響）
 - 働く人の減少と消費者の減少による経済の冷え込み
 - 町の機能が失われ、自治体が維持できなくなる
- ・情報環境の影響
 - どこか遠い国の問題のように感じる
 - SNSや情報機器は、興味のある事柄を調べるツール
 - インターネットにおける、SNSやニュースの最適化、AI要約など
 - 自ら調べない限り、興味のない社会課題が届きにくい構造



4

岡山県の「魅力」と「課題」

比較項目	若者にとっての「魅力」	若者にとっての「課題」
生活環境	都心と田舎のバランス、温泉の多さ 友人や家族が近くにいる安心感	遊べる場所の不足、企業の少なさ 夜の閉店が早い 、娯楽の選択肢がない
交通基盤	市街地の交通の便の良さ	車がないと不便 な地域の格差
街の機能	夜間の充実・遊び場の確保	閉店が早い・公共交通の不便さ
人間関係	見慣れた環境、既存のネットワーク	刺激が少なく、新しい出会いが乏しい

5

就職と居住地の選択

- ・ 地元になりたい
 - 家族が近くにいる安心感
 - 経済的理由
 - 環境の変化による生活の質の低下が心配
 - 家賃を抑え、早期に貯金をしたいという堅実志向
(社会人生活に慣れ、貯金ができれば移動する可能性も)
- ・ 県外へ移住したい
 - 東京への憧れ(刺激)
 - 他の地方(「推し」の緑の地)への関心
 - 家賃補助・福利厚生が、移動の条件
- ・ 「やりたい仕事」があれば動くが、ベースは「無理のない生活」

6

子育てと将来の不安

- ・ 経済的なものだけでなく精神的な側面も大きい
- ・ 精神的なハードル: 「自分が親としてやっていけるか」という自信の欠如
- ・ **セーフティネットへの疑念**: 万が一、ひとり親になった際の公的支援への不安
- ・ 居住地の選択条件
 - 保育園の預けやすさ
 - 地域の人口密度
 - 安心して頼れるコミュニティの有無

7

地域貢献の経験

- ・ 参加経験のある地域活動
 - 保育園や学校イベントでの演奏(吹奏楽部)
 - 地域清掃
 - ボランティア活動
 - ユニークな地域活動(「りんご園での映画上映準備」)
- ・ これらの経験が、大人になってからの「地域づくりへの主体性」に結びつく導線が不足しているのでは?



8

若者からの提言：ハコモノから「一流の体験」へ

- 娯楽の選択肢がない → アリーナが欲しい
- 他県の例
 - あなぶきアリーナ香川（香川県）
 - WEST.(旧ジャニーズ)のアリーナツアー「WEST.LIVE TOUR 2025 A.H.O.-Audio Hang Out-」3日間開催
 - 広島グリーンアリーナ（広島県）
 - なにわ男子(旧ジャニーズ)のアリーナツアー「なにわ男子 LIVE TOUR 2025「BON BON VOYAGE」」2日間開催



9

しかし...

- 「箱（アリーナ）」だけでは不十分
 - ただ大きな施設を建てるのではなく、既存の施設を改良し、より効果的に投資すべき
- 「一流を呼ぶ」運用の重要性
 - 「いいアーティストを呼べるかどうか」が施設の価値を決める
 - コンテンツ（ソフト）が伴わない投資は、若者の心に響かない

10

若者の求める「一流を呼ぶ」施設運用

- コンテンツやアーティストを呼べるプロモーションカ
 - 魅力的なイベントによる若者の流入・滞留
- 「一流の大物アーティストが来る岡山」
 - 岡山県民としての誇り
 - 「他都市のイベントに行けばよい」ではない



11